

ツメレンゲ *Orostachys japonicus* (Maxim.) A. Berger

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 11。岩崖地を特徴づける植物で、著しい園芸目的の採取圧がある。

【形態】

1 回開花性の多年生草本。根茎はない。葉は密生し、夏には直径 12cm に達するロゼットをつくり、ロゼット葉は多肉質で披針形、長さ 2.5~6cm、幅 5~15mm、緑色または白色を帯びた緑色、先端は鋭頭で短針がある。冬のロゼットの葉は夏のものより小さく、先は硬くなり針状にとがる。花期は 10~11 月、ロゼット中央の軸の上方に円錐状の高さ 8~30cm の花序をのぼし、密に白色の花をつける。花弁は 5 枚で披針形、長さ 5~6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 48866, 1993-10-17)、2 豊根 (村松正雄 14340, 1993-10-10)、3 東栄 (小林 83509, 2000-10-3)、9 鳳来南部 (小林 654361998-11-3)。尾：45 犬山 (小林 49026, 1993-10-2)、50 名古屋北部 (村松正雄 17403, 1997-11-16)。名古屋北部では、真の自生ではないかもしれないが、名古屋城の石垣に大きな群落がある。名古屋城のものを移入と見なし除外すれば個体数階級が 2 になり、愛知県での評価は絶滅危惧 II 類になる。

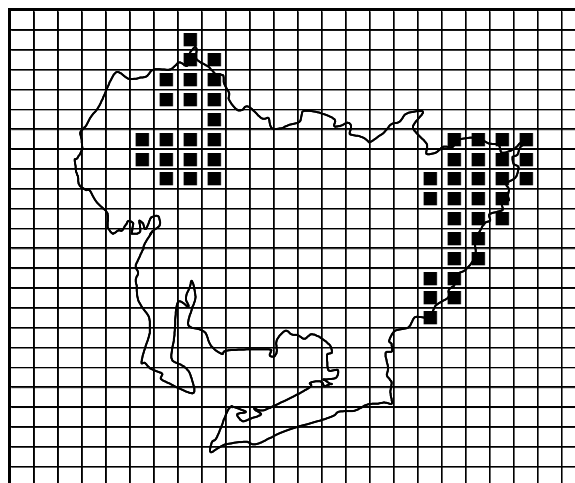
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○		○	
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

昔から園芸植物として珍重され、集中的に採取されるため、手が届く範囲にはほとんど見られなくなっている。東三河では、園芸業者が岩ごと運び出しているという。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、常時監視できない場所では、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、細く尖った葉が動物の爪に似ているからである。

【関連文献】

保草本 II p.159, 平草本 II p.149, 平新版 2 p.220, SOS 旧版 p.55, SOS 新版 p.43,45.